

生徒のみなさんは必ず保護者の方に渡してください。

西尾が丘

令和6.10.1
直方第二中学校
校長 川原 国章
第9号

※より一層の学力向上をめざして

本校の学力等調査結果の概要

	調査名	備 考
1 学力	全国学力調査	R6年4月実施 第3学年対象 国・数
	福岡県学力調査	R6年6月実施 第1, 2学年対象 国・数
2 学習状況等	学習状況調査	R6年4月実施 第3学年対象

1 学力調査結果及び分析（第3学年を中心に記載）

	全体的な傾向	よくできた問題
		努力が必要な問題
国語	3年生は、2年時と比べて、数値が改善されている。 2年生は、1年時と比べて、数値が改善されている。 1年生は、例年と比べて高い値であった。	話合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること、文中の情報と情報との関係について理解すること、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し伝えたいことを明確にすること
		目的に応じて必要な情報に着目して要約すること、文の成分の順序や照応について理解すること、行書の特徴を理解すること
数学	3年生は、2年時と比べて、数値が改善されている。 2年生は、1年時と比べて、数値が大きく改善されている。 1年生は、例年と比べ高い値であった。	連続する2つの偶数を式で表すこと、問題場면을捉え、正の数・負の数の計算をすること、2つのグラフにおけるy軸との交点について事象に即して解釈すること
		回転移動について理解すること、一次関数の式とグラフの特徴について理解すること、問題解決の方法を数学的に説明すること、筋道を立てて考え証明すること

2 学習状況調査結果及び分析（第3学年の調査結果を抜粋）

良かった項目	授業の中でICT機器を活用している。 地域や社会を良くするために何かしてみたいと思っている。 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりする。
課題のある項目	ゲーム、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間が多い。 学校の授業時間以外に、1時間以上勉強する生徒の割合が全国と比べ低い。 自分の考えを発表する際、伝わるように工夫する生徒の割合が全国と比べ低い。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指していきます。また、引き続き、授業や補充学習、スパイラル（15分間の学習）、朝チャレンジ等を通して、鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた実践の充実に努めなければならないと考えております。

※「^{きた}鍛ほめ福岡メソッド」の取組

「鍛ほめ福岡メソッド」とは、**鍛えて**（いろいろ試して解決したいと思う心やできないことをできるようになりたいと思う心を）**ほめて**（取組の結果や取り組んできた過程を）**子どもの可能性**（学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、困難に立ち向かう心等）を**伸ばす**という福岡県独自の指導方法です。

指導者（教員）は生徒に「少し難しい目標や課題（壁）を設定し（鍛える）」、子どもは周囲の人たちから最小限の支援を受けながら何度も「挑み」、目標に向かって活動に取り組んだ過程や結果を「認められる（ほめる）」という仕組みからなるものです。

「一流の生き方」と「三流の生き方」の比較

よく聞かれるものに「言われなくても実行するのが一流」「言われて実行するのが二流」「言われてもやらないのが三流」。また、「失敗を成功につなげる人が一流」「責任転嫁や言い訳をして同じ失敗をする人は二流」「自分が失敗したことすら気付かない人は三流」とも言われます。

次は将棋の優勝回数日本一の羽生善治さんの言葉です。

「三流は、人の話を聞かない」「二流は、人の話を聞く」「一流は、人の話を聞いて実行する」「超一流は、人の話を聞いて工夫する」なるほど・・・。

次はオリンピック選手を育てるスポーツトレーナーの言葉です。

「三流の選手は、『いかにサボるか、手を抜くか』を楽しむ。」「二流の選手は、『勝てば喜び、負ければ悲しむ』勝ち負けの結果を楽しむ。」「一流の選手は、『勝とうが負けようが、自分自身が強くなること』を楽しみ、『最後に勝つ、常に成長すること』を楽しむ。」メダルを取る人たちはこの境地の人たちなのです。

このことは日頃の勉強にも当てはまりそうです。

「三流の授業姿勢は、手を抜く、さぼる、居眠りをする。そこには努力をしないで、ラクをして授業を受けようという考えが見られます。つまりその人の満足は、できるだけ何もしないということです。」

「二流の授業姿勢は、目先のテストの結果にとらわれたり、居残りしたりしたくないなどの動機で変わります。そういう人が勉強する理由は親から叱責を受けたくないためや勉強すれば何か買ってもらえるなど他の理由によって生まれていると考えられます。」

「一流の授業姿勢は、その教科の内容がわかることに喜びを感じたり、難問にチャレンジしたりしてその教科の面白さを追求しています。わからないことに対してわかりたいという気持ちを持ち、自分に打ち勝つ内発的なやる気を持った主体的な人、こんな人が成功するという訳です。」もちろん、一流になるためには、皆さんの努力だけではありません。我々教師も精一杯皆さんを支えていかなければならないと思っています。

